



東京大学 駒場図書館開館20周年 記念誌

20th KOMABA LIBRARY ANNIVERSARY





本の集積の時空間に思いをはせて

石田 淳 教授／駒場図書館長
大学院総合文化研究科 国際社会科学専攻

本にまつわる逸話に事かいては大学とは言えません。20年ほど前の昔話ですが、学内の盜難事件をめぐって、次のような雑談をしたことがあります。

「研究室と知って侵入するような泥棒はそれなりに目利きだから、価値のある古書だけを持って行くようですね」とAさん。これに対してBさんが、「○○先生の研究室にも泥棒が入ろうとして廊下側のガラス窓を割ったことがあったと聞きました。ただ、○○先生の研究室は書架だけでは本が収まりきらずに、ガラス窓の内側にも分厚い本がびっしりぎっしり堆積していたから、その泥棒もついに侵入をあきらめたらしいです」と返しました。その場は笑いに包まれつつも、一同この逸話に妙に「さすがだ」と感心し、ここで話を終えるのも悔しいとばかりに、「さすがなのは、難攻不落の研究室を築いた○○先生か、それとも突貫作業も中途でいさぎよく立ち去った泥棒か」と話は尽きない、という具合でした。

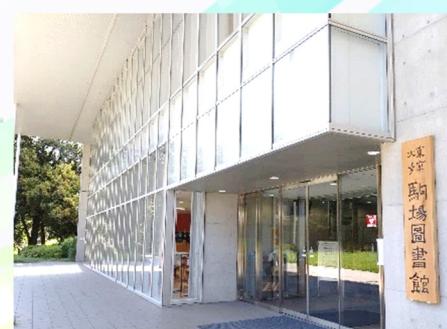
ここで『本の集積の時空間』としてキャンパスの歴史を頭の中で視覚化してみてください。教員の私物図書の詰まった個人研究室を別にすると、本の集積地こそ、学科等の図書室、研究科・研究所等の部局図書館、そしてキャンパスごとの拠点図書館です。駒場キャンパスにおける本の集積は、新制東京大学教養学部の設置(1949年)以前にさかのぼります。1935年に旧制第一高等学校(弥生)と東京帝国大学農学部(駒場)との間で敷地交換がなされ、同年に一高図書館(現在の駒場博物館)が竣工されて以来、キャンパス内の蔵書の総量は増加の一途をたどるとともに、その所在分布はダイナミックな変化をとげてきました¹。一高時代は、教官(当時)の利用する図書も含めてすべて図書館に収蔵されていましたが、教養学部設置を機

に、図書の分類にも研究室図書というカテゴリーが生まれ、キャンパス内の研究棟に図書のミニ集積地が出現していったのです。キャンパス内の蔵書の最大集積施設も、1969年までは一高以来の図書館、そして1969年竣工の教養学部図書館、さらに2002年竣工の現在の駒場図書館へと変遷してきました²。

歴史的経緯は、東京大学教養学部編『東京大学駒場スタイル』(東京大学出版会、2019年)や、駒場70年史編集委員会編『駒場の70年』(東京大学出版会、2021年)に譲りますが、教養学部ならびに総合文化研究科の組織再編、施設整備、学術テクノロジー(電子データベース等)刷新など、必要性と可能性の諸要因が、キャンパスにおける図書の収蔵分布をダイナミックに書き換えてきました。こうした歴史の中に、駒場図書館の現在はあります。

1 一高図書室の図書は震災でも戦災でも焼失を免れました(長尾龍一『一高・駒場・図書館:忘れかけたことども』1998年、11頁)。

2 現在の駒場図書館の表札は、当時の駒場図書館長であった竹内信夫名誉教授が揮毫されたものです。





夢見る駒場図書館

石原 あえか 教授／大学院総合文化研究科図書館長
大学院総合文化研究科 言語情報科学専攻



大学図書館は、学生・教職員の学習・研究に必要な資料を収集・保存・提供するという重要な役割を担っています。そして近代的な大学の学術コレクションは、特に18世紀のドイツで発展したと言われます。哲学者ライプニッツや劇作家で批評家のレッシングは図書館長経験者ですが、詩人ゲーテも図書館と縁が深く、1797年から亡くなるまでの35年間、ヴァイマル図書館[現アンナ・アマーリア公妃図書館HAAB]およびイエーナ大学[現フリードリヒ・シラー大学FSU]図書館の監督官を務めました¹。イエーナでの仕事ぶりには次のような逸話があります。ゲーテは就任早々、一階に湿気が多く、本が黴害に悩まされていると知り、向かいにそびえる市壁を一部壊し、光と風を入れました。ちなみに黴は今も図書館の大敵です。しかも高温多湿な夏の東京では、節電協力で冷房を緩めるだけでも黴が侵入・蔓延する危険が高いのです。さらにゲーテは同図書館に部屋を譲る約束をしながら、なかなか鍵を渡さない医学部の講義室に石工を呼んで穴を開け、開口部から本を搬入してしまいました。晩年、ゲーテはこの荒業を回顧し、「人は困難に直面してはじめてよいことを成し遂げられる」とコメントしています。

中島京子の図書館を主人公とした小説『夢見る帝国図書館』(文藝春秋、2019)でも、「図書館の歴史は金欠の歴史」とされ、財政難と空間不足との闘いは日常茶飯事として描かれます。永井荷風の父・久一郎が館長として奮闘したように、苦境の中で蔵書を増やし、環境を改善するためには、図書館員の皆さんのがんばり戦略と実行力が頼ります。上野の帝国図書館こと現・国際子ども図書館は財政難等の理由で当初計画の3分の1規模で止まりましたが、同様に「駒団(こまと)」も予定の半分の規模で20年前に誕生しました。しかし大学図書館は研究

と教育のためのコレクションが真髄です。また雑誌も捨てずに製本し、保管します。堅牢そうに見えて、実は水にも火にも弱く、油断すると虫にも食われる紙の本を守り、次世代に繋ぐのは容易ではありません。その意味で、この20年の節目に、新たに荻生徂徠の寄贈資料をお引き受けできたことを喜ばしく思う一方、もともと計画の半分の収納力しかない駒団は、とうとう飽和状態になります。駒団誕生時からの悲願である二期棟の夢を実現させる努力は、これからも続きます。

2020年からのCOVID-19感染拡大下では、2ヶ月近い臨時閉館を余儀なくされたが、「いかなる状況下でも、すべての人たちに情報を提供する」という「図書館の自由」を駒団は精一杯守り、情報発信や学生・教員への情報利用支援プログラムを強化しました。来館が難しい方やお子様連れでもご利用いただける方法も考え続けています。

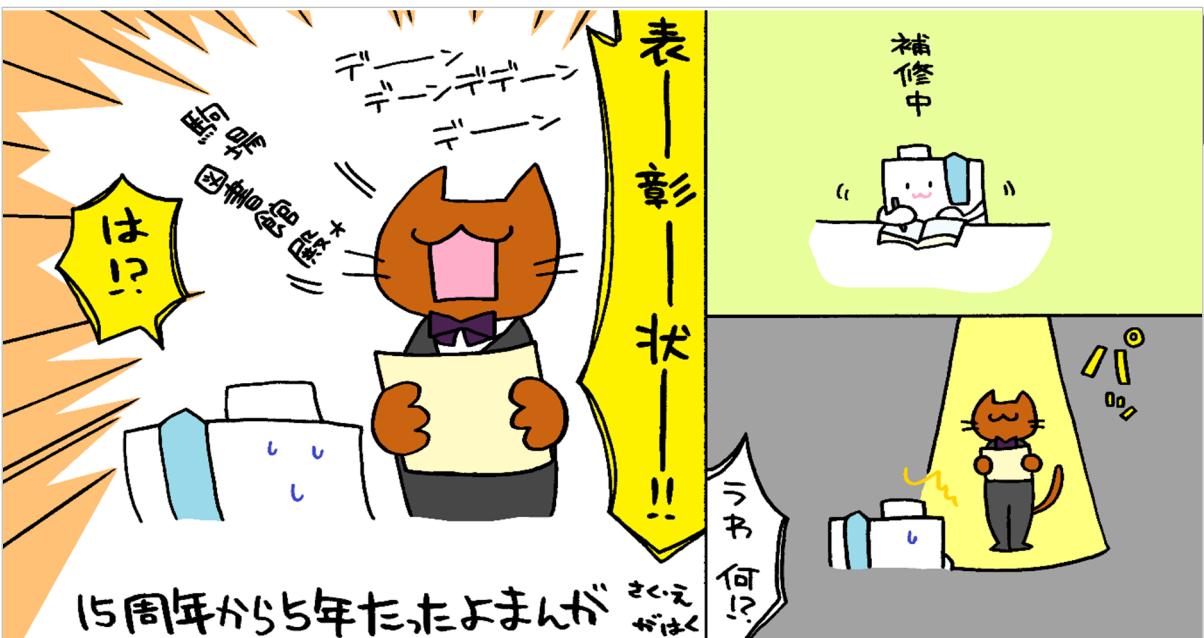
閉館を知らせる子守歌Shannon's Lullabyが流れた後、もしかして駒団の本たちも、彼らをかつて手に取った森鷗外や夏目漱石の噂話をしているのでしょうか。ともあれ20歳になった駒団と、これからもたくさんの夢をかなえていければ嬉しく存じます。

1 以下のゲーテにまつわるエピソードも含めてヴィンフリー・レーシュブルク著、宮原啓子・山本三代子訳『ヨーロッパの歴史的図書館』国文社(1994)を特に参照した。

コロナ禍の制限を糧に成長した図書館サービス

→ p.4からスタート





成長ポイント ①図書館活用ガイド

図書館活用ガイド

あべこ
あかね

- ・サービスについて
 - ・本の探し方について
 - ・My OPACについて
- など、図書館の案内をまとめたHP内のページ

こまとちゃんの
まんがもあるよ。



駒場図書館20年間のあゆみ

2022年10月2日、駒場図書館は開館20周年を迎えました。15周年記念誌では創設以来の活動やコレクションをご紹介しました。本冊子ではこの5年間の活動や20周年記念事業をご報告します。

沿革

1949 第一高等学校・東京高等学校が東京大学に包摂され「東京大学教養学部」となる

1969 東京大学教養学部図書館本館竣工



教養学部図書館
(左1997,上2002.7撮影)



駒場博物館（2018撮影）
第一高等学校の時代はここが図書館でした

1996 新図書館構想決定

2002.10.2 駒場図書館開館 … 8号館図書室および同分室の資料を地下1・2階へ統合

2004 東京大学附属図書館の駒場地区拠点図書館となる

2006 公式キャラクター「こまとちゃん」誕生



駒場図書館の開館直前（2002.9撮影）

こまとちゃんは建物を西側から
見た様子を描いています



2010 GENKI BOOKSコーナー設置

2015 アジア経済研究所図書館（千葉市）と相互利用に関する覚書を締結

2017.10.2 駒場図書館開館15周年

オリジナルブックカバーおよび壁紙画像プレゼント企画を実施
2018.3-4 開館15周年記念誌（本誌）発行、記念展示を実施



2019 国立国会図書館視覚障害者等用データの送信サービスの送信承認館
および収集サービスのデータ提供館となる

2020.1 UTokyo BiblioPlazaコーナー設置

2020.8 YouTube「こまとちゃんねる」開設



2022.10.2 駒場図書館開館20周年

駒場図書館は、
教養学部の図書館で
あり、かつ総合文化
研究科の図書館でも
あるため館長が
2名います

* 所属研究科は全て大学院総合文化研究科

歴代館長

駒場図書館長			総合文化研究科図書館長		
2002-2003年度 * 教養学部図書館長 から継続	竹内 信夫	超域文化科学専攻	2004-2007年度	鹿児島 誠一	広域科学専攻
2004-2004年度	木畑 洋一	国際社会科学専攻	2008-2011年度	鍛治 哲郎	言語情報科学専攻
2005-2006年度	兵頭 俊夫	広域科学専攻	2012-2015年度	橋本 肇彦	広域科学専攻
2007-2009年度	石井 洋二郎	地域文化研究専攻	2016-2017年度	菅原 克也	超域文化科学専攻
2010-2011年度	木村 秀雄	超域文化科学専攻	2018-2019年度	豊島 陽子	広域科学専攻
2012-2014年度	酒井 哲哉	国際社会科学専攻	2020年度-	石原 あえか	言語情報科学専攻
2015-2017年度	田中 純	超域文化科学専攻			
2018年度	古城 佳子	国際社会科学専攻			
2019年度-	石田 淳	国際社会科学専攻			



20周年記念事業

20周年を記念して、ささやかながら、オリジナルブックカバープレゼント、常設展の新設、20周年カウントダウンTweet企画を行いました。



1 オリジナルブックカバープレゼント

館内では、クラフトペーパー、水色、白色の3種類、文庫本サイズのブックカバーを配布しました。

駒場図書館ホームページに掲載した20周年記念イベントページからもダウンロードできます。

裏面はフロアマップと沿革▶

▼イベントページ

イベント

駒場図書館 ABA LIBRARY
THE 20th ANNIVERSARY 2022.10.2
東京大学駒場図書館開館20周年

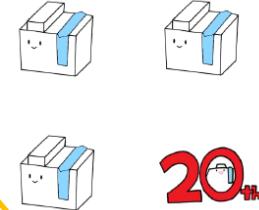
駒場図書館開館20周年記念事業
2022-09-21

<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/komaba/event/20220921>

▼館内配布



絵柄アップ



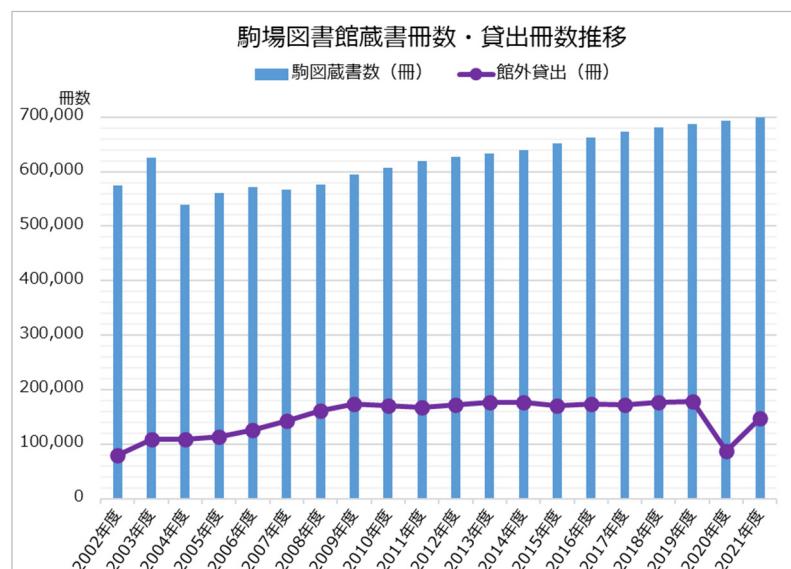
20th

基本統計・活動報告

この20年間で駒場図書館の蔵書は約12万6千冊増加し、2021年度末で約70万冊となりました。コロナ禍でサービス縮小を余儀なくされ、2020年度は入館者数や貸出冊数が大幅に減少しましたが、2022年度には概ね通常開館に戻り、図書館利用も復調してきました。

今後も移りゆく状況に適宜対応しながら、学習・研究・教育支援に努めています。

駒場図書館の基本統計や年度毎の活動報告は以下に公開されています。



附属図書館統計表

<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/contents/about/statistic>

附属図書館活動報告書

https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/contents/publication/annualreport/bn_katsudo



2 常設展の新設

駒場図書館開館20周年の機会に、普段はなかなか見えにくい駒場図書館の活動やコレクションを紹介する常設展を新設しました。場所は、1F展示コーナーまたはコピーコーナー前の展示ケース（2022年9月29日～）です。今まで、何も展示企画の無い期間は空っぽの展示ケースが並ぶ寂しい空間となっておりましたが、いつも何かしらの展示をお楽しみいただけたようになりました。常設展は、内容の変更や展示物入れ替えの可能性もありますので、たびたびお立ち寄りいただければ幸いです。本稿では、開始当初の展示内容をご紹介します。

展示協力：田村隆准教授、高山大毅准教授／大学院総合文化研究科
折茂克哉助教／駒場博物館・大学院総合文化研究科



▲1F展示コーナー

▲ポスター

テーマ 1 知る人ぞ知るこまとコレクション

普段は皆さんの目にあまり触れることのない駒場図書館のコレクションをご紹介します。

パネル展示



乞うご期待！荻生徂徠コレクション

2021年12月に駒場図書館に荻生家より寄贈された、荻生家伝来の荻生徂徠に関する資料群で、今後の調査・研究に大きな期待が寄せられているコレクションです。その内容について展示パネルでご紹介できる日もそう遠くないかもしれません。

■ プレスリリース、教養学部報の関係記事

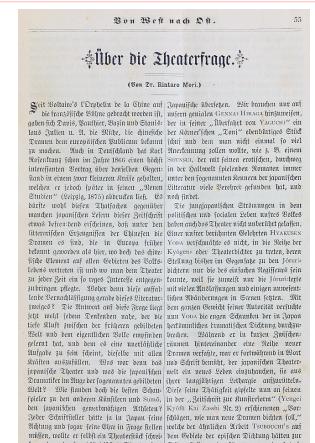


駒場図書館で発見された森鷗外 幻の雑誌！

1889年森鷗外によって刊行されたドイツ語雑誌「Von West nach Ost (東漸新誌)」。その第5号には、2019年に当館で発見されるまで内容が未確認であった森鷗外の論文“Über die Theaterfrage”が掲載されています。以前からその存在は知られていたものの、現物が発見されず「幻の雑誌」と呼ばれていました。この論文は全訳され、明治大学文学部紀要「文芸研究」に掲載されました。

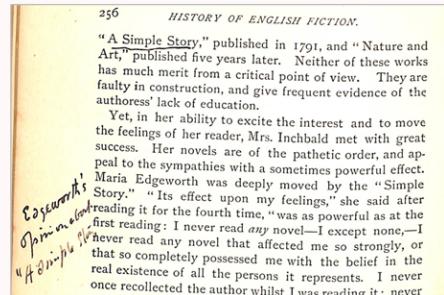
■ ヨミダス歴史館 読売新聞、2019年1月12日夕刊1面『鷗外独語の演劇論掲載誌 東大で発見 歌舞伎の「仇討ち」も許容』

■ Rintaro Mori Über die Theaterfrage, Von West nach Ost ▶ (東漸新誌) Vol. 5, 1889, p.55-58



夏目漱石が書き込んでしまった本（貴重書）

旧制第一高等学校（一高）英語講師であった夏目漱石が一高図書館から借りた図書に文字や線を書き込んだもの。3冊確認され、駒場図書館の貴重書となっています。発見の経緯や書き込みの内容については岡三郎著『夏目漱石研究』第1巻「八.東京大学教養学部図書館に発見された漱石の書入れ本」で発表されています。



■ Bayard Tuckerman 『A history of English prose fiction』▲
G.P. Putnam's Sons, 1899, c1882

■ 岡三郎著『夏目漱石研究』第1巻 国文社, 1981

■ 第一高等学校＜教官用＞図書貸借簿(1903.9月～1904.6月) ▶

51 夏月				
返 送 期 日	書 名	番 號	摘要	定 期
1. 7. 25	Bearista, 19th cent. Literature	WA.378	A. 36.7.2	
1. 7. 25	Jonathan, History of English prose.	WA.491	
2. 2. 5	Student, Works. 2 vols.	WA.384	

国際的な建築家 磐崎新氏(東大卒業生)寄贈コレクション

国際的な建築家である磐崎新氏より、2017年に駒場図書館に寄贈されたコレクションです。合計338点に上る寄贈資料には、建築関係の和洋書を中心として、現代美術の貴重な画集・作品集も数多く含まれています。

- Le Corbusier, 佐々木宏翻訳『ル・コルビュジエの手帖
ドイツ紀行』同朋舎出版, 1995.
- 長尾重武『ピラネージ《牢獄》論』中央公論美術出版, 2015
- 稲垣足穂, 中村宏『機械学宣言:地を匍う飛行機と飛行する蒸気機関車』仮面社, 1970
- 佐々木宏『二十世紀建築のあるパトロン:ヘレン・クレーラー=ミューラーと建築家たち』南風舎, 2002
- 『Les Immatériaux』Centre Georges Pompidou, c1985



ご存知ですか？駒場図書館の特殊文庫

- 駒場図書館所蔵特殊コレクション一覧 (27コレクション)
- 特殊コレクションの配架されている保存書庫(写真左:一高文庫)・貴重書庫(写真右)の様子



テーマ 社会に役立つこまとコレクション

2

駒場図書館のコレクションは、ときに出版物へ掲載されたり、TVで放映されたり、博物館等で展示されたりと、様々な形で社会に貢献しています。その特別利用の中で人気の高いコレクションTOP3をご紹介します。デジタルアーカイブ化された資料はWebで自由にご覧になれます。

特別利用
人気
No.1



2004～2021
年度申請の
26%

竹本筑後掾之画（竹本義太夫肖像）木谷文庫 090:1:85

近松門左衛門の作品を語り人形浄瑠璃の隆盛をもたらした竹本義太夫(1651-1714)の肖像画。

駒場図書館開館記念に作成された手拭いにもこの肖像画が用いられており、そちらも今回一緒に展示されています。

- 木谷蓬吟『浄瑠璃研究書』第一書房, 1941
- 神田由築. 教養学部図書館所蔵木谷文庫の紹介. 図書館の窓, Vol.39 No.4, 2000
- 駒場図書館開館記念てぬぐい
- (株)博多座演劇事業部宣伝担当編『博多座文楽公演（竹本義太夫三〇〇回忌）』(株)博多座, 2013.12



8
8
8

デジタル化資料が公開されています

<https://iiif.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/repo/s/kaishi/page/home>

特別利用 No.2 明治維新当時諸藩艦船図 ◀ 23%

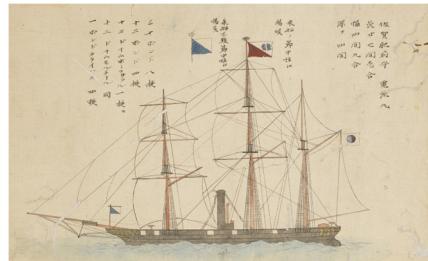
人気 No.3 九鬼公釜山海船柵之図 ◀ 4%



これらの「大日本海志編纂資料」は日本船舶海洋工学会より「ふね遺産」に認定されており、その認定書と盾も一緒に展示しました。



ふね遺産の盾



明治維新当時諸藩艦船図 [7-3-68]



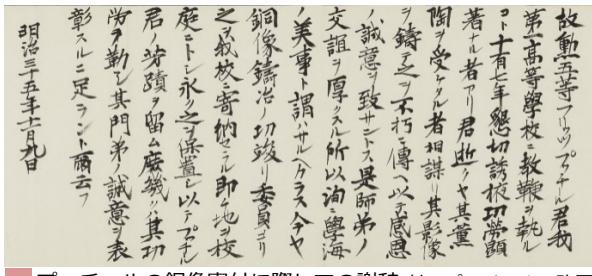
九鬼公釜山海船柵之図 [7-3-29]

デジタルコレクション
狩野亨吉文書

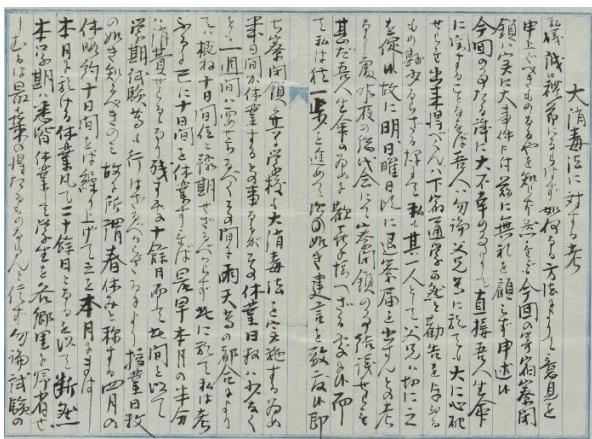
田村 隆 准教授／大学院総合文化研究科
「狩野亨吉文書」は、幕末の出羽国秋田郡(現秋田県大館市)に生まれ、旧制第一高等学校(一高)の校長や京都帝国大学の初代文科大学長などを歴任した狩野亨吉(1865～1942)の遺蔵資料群です。狩野は蒐書家としても名高く、10万冊を超える膨大な旧蔵書および古文書類は、国宝2点を含む「狩野文庫」として知られる東北大学附属図書館をはじめ、九州大学附属図書館、京都大学総合博物館などが所蔵します。一方、「狩野亨吉文書」はそれらとは性格を異にし、主に校務文書・個人書簡・日記から成ります。文書全体の分量は47函、その多くを占める個人書簡は約2万通に及びます。

科学研究費の助成を受けて撮影し、東京大学デジタルアーカイブズ構築事業によりデジタル公開されている資料は、狩野が東京大学教養学部の前身である一高の校長を務めた1898(明治31)～1906年の校務文書が中心です。授業の時間割や入学式・卒業式の式辞なども含まれ、学業や寄宿寮生活のこと、また清国留学生の受け入れ開始や一高医学部の千葉医学専門学校としての独立、臨時教員養成所の設置、寮内で感染が広がった腸チフスへの対応など、在任中の狩野および一高を知る上で貴重な資料群です。

■ 「清国京師大学堂派定留学生二関スル書類」
付・「清国京師大学堂留学生二関スル第一年報告書」下書

デジタル化資料が公開されています <https://iiif.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/repo/s/kanok/page/home>

■ プッチャールの銅像寄付に際しての謝辞 付・プッチャールの略歴



■ 学生・本多元俊の建議書 (チフス事件に際して)

折茂 克哉 助教／駒場博物館

第一高等学校旧蔵資料(一高資料)は、現在、駒場図書館・駒場博物館に所蔵されている、第一高等学校(一高)旧蔵の文書・図書・掛図・機器・写真などからなる資料群と、一高の関係者(教官・卒業生など)によって作成・収集・寄贈された資料群から構成されます。

一高資料には、教科書・参考書として用いられたものを含む図書、人事関係を中心とする事務文書、生徒の活動を物語る寮日誌、生徒が測量して作成した実測図を含む掛図、数は少ないが世界的にも珍しいものが多い実験機器などが含まれています。整理・調査が継続して行われる一方で、電子化されたデータの公開も行われています。

第一高等学校旧蔵資料



■ 朝廷御鷹野之影 二巻 [十:い:44(4)]

■ 第一高等中学校実測図 [十い-5-15]

デジタル化資料が公開されています

<https://iiif.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/repo/s/ichiko/page/home>

3 20周年カウントダウンTweet

駒場図書館の公式Twitterでは、こまとちゃんが身体をはってカウントダウン。
今年度の投稿No.1の反響となりました。

駒場図書館開館20周年記念日まで

＼あと10日／

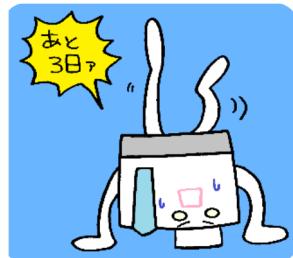
本日は、「10(とお)」にちなんで豆腐になってしまった（！？）こまとちゃんです！



駒場図書館開館20周年記念日まで

＼あと3日／

カウントダウンもラストスパート！本日は「3」にちなんで、こまとちゃん気合の三点倒立です！



駒場図書館開館20周年記念日まで

＼あと2日／

本日は、「2」にちなんで2段アイスを食べるこまとちゃんです！



駒場図書館開館20周年記念日まで

＼あと9日／

本日は、「9」にちなんでクジラに打ち上げられるこまとちゃんです！



駒場図書館開館20周年記念日まで

＼あと4日／

本日は、「4」にちなんで四葉のクローバー。こまとちゃんから皆さんへ幸せをお裾分けです！



駒場図書館開館20周年記念日まで

＼あと1日／

本日は、「1」にちなんで一番星を見上げるこまとちゃんです！



駒場図書館開館20周年記念日まで

＼あと8日／

本日は、「8」にちなんで8本足のタコと仲良くなった（？）こまとちゃんです！



駒場図書館開館20周年記念日まで

＼あと7日／

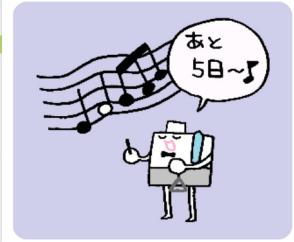
本日は、「7」にちなんでこまとちゃんと7色の虹のツーショットです！



駒場図書館開館20周年記念日まで

＼あと5日／

本日は、「5」にちなんで五線譜。こまとちゃんも美声を披露！



駒場図書館開館20周年記念日まで

＼あと6日／

「6」といえば六大学野球！本日は野球選手に扮したこまとちゃんです！



＼祝！駒場図書館開館20周年！！／

本日はこまとちゃんのお誕生日！大きなケーキでお祝いです！

これからも駒場図書館とこまとちゃんをよろしくお願いいたします！



公式Twitterは、2012.3.21にツイートを開始し、2022年10月現在
9,600名を超える方にフォローされるアカウントに成長しました。

<https://twitter.com/UTokyoKomabaLib>





発行 東京大学駒場図書館
発行年 2023年2月1日